



に じゅう いっ せい き い  
**二十一世紀に生きる**  
 きみ  
**君たちへ**



子どもの“いじめ”の報道に接するたび、親として考えさせられることが多いのではないのでしょうか。

現時点では“いじめ問題”の画期的な解決方法は、残念ながらないように思えます。だからと言って何もしない「無関心」は、いじめの原因の一つとなってしまうでしょう。

本来なら、こういった問題は子どもと向き合って話し合うことが一番いいのですが、子どもにもプライドがあるため、親に心配や迷惑をかけたくないといった気持ちから、一人で抱えこむ子どもがほとんどだと聞きます。

そんな中、小説家の司馬遼太郎さんが遺された「二十一世紀に生きる君たちへ」という、“小学生の国語の教科書用”として書かれたメッセージが話題になっています。

この文章は、司馬さんが21世紀という未来を生きる若者たちに、「自己を確立してほしい」という願いをこめて書かれたメッセージです。

『…さきに私は自己を確立せよ、と言った。自分に厳しく、相手にはやさしく、とも言った。いたわりという言葉も使った。それらを訓練せよとも言った。それらを訓練することで、自己が確立されていくのである。そして、頼もしい君たちになっていくのである』(本文より)

といった内容のものです。

文中の“訓練”とは、たとえば「友達が転んだとき『ああ、痛かったんだろうな』と感じる気持ちを、そのつど自分の中で作り上げていきさえすればよい」といった意味合いとして書かれています。

司馬さんが遺してくれた温かく力強いメッセージが、未来を生きる子どもたちの一つの救いになることを願っています。

